

(別添 3)

【宝達志水町】

校務DX計画

1. 校務DXを推進するうえでの現状と課題

令和3年度より統合型校務支援システムを導入し、校務管理、学籍管理等の業務のデジタル化を推進している。

また、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果では、授業研究会や校内研修等の、コロナ禍における取組としてのオンライン化が積極的に行われたこともあり、クラウドツールの活用が浸透しつつある。

その一方で、教職員と保護者間の連絡、教職員と児童生徒間の連絡、教職員間の連絡のデジタル化は進んでおらず、またFAXや押印、署名の原則廃止も行っていないことから、クラウドツールの積極的な活用による負担軽減と、コミュニケーションの活性化が今後の課題である。

2. 校務DXを推進するための課題解決策

(1) 教職員と保護者間の連絡のデジタル化

ペーパーレス化や教職員の空き時間に配信できるというメリットを理解し、クラウドツールの活用を目指していく。

(2) 教職員と児童生徒間の連絡のデジタル化

クラウドツールの活用により、連絡のデジタル化を目指す。

(3) 学校内の連絡のデジタル化

校務支援システムのグループウェア機能を用いて、日々の資料共有や連絡を行っている。デジタル化には学校差があるため、活用頻度の高い学校の事例紹介等の教職員研修を企画し、格差の解消を目指す。

(4) その他

FAXの使用や押印、署名については、原則廃止の方向を目指し、校務の効率化やペーパーレス化を進めていく。しかし、FAXについては必要な場面があることも承知しているため、学校に対してFAXや不必要な押印を求めることのないよう、関係各所に働きかけを行う。

3. 次世代校務DX環境の整備について

令和5年3月に文部科学省が取りまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」において方向性が示された「次世代校務DX」環境を目指し、必要な環境整備については今後、各学校情報担当者とも連携しながら、検討を行う。